Honda の交通安全情報紙　SJ 2022 年 夏号　6 月 23 日発行

SJ

The Safety Japan
since 1971

2022 SUMMER NO.509 夏号

Safety Report　セーフティルポ　若者

群馬県が Honda のプログラムを活用し、中学生に自転車の交通安全教育を展開

Honda は交通安全教育を通じてルールやマナーの重要性、人への思いやりなど道徳心のある交通社会人を育てるため、高校生向けの交通安全教育プログラムを開発し、全国の高校に普及してきた。群馬県教育委員会は、このプログラムを活用し、県内の高校生への自転車の安全教育に力を入れて取り組み、中学生にも拡大している。今回は、群馬県桐生市内の 2 つの中学校で実施された交通安全教室を紹介する。

桐生市立中央中学校での 8 の字走行。直径約 8 m（台数により変化する）の円をつなげたコース内に自転車 12 ～ 13 台が入り、走行を続ける。停止時の自転車の構え（左足着地・右足ペダル・両手ブレーキ）を確認してスタート。途中、全員がスムーズに走るためにはどのようにすべきか、生徒一人ひとりに考えてもらう

「高校生交通安全教育プログラム（高校生の自転車による交通事故防止を目的とした実技と座学）」は、生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守ることができるようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、Honda が開発。さらに、学校の先生方が自主的に運営できるように映像で解説した「高校生交通安全教育指導マニュアル（以下、指導マニュアル）」を作成した。

これまで群馬県教育委員会（以下、県教委）は、2016 年から県内高校の交通安全指導者を集め、Honda と連携しながら高校生向けの自転車教室運営ノウハウを学ぶ研修会を設定し、普及を図ってきた。

県教委事務局 健康体育課学校安全・給食係指導主事 黒巖賢さんは「群馬県は、特に高校生の自転車事故が多い※ことから、高校での自転車教育を充実させてきましたが、その前段階となる中学校での指導も充実させる必要があると考えました。なぜなら中学生になると通学などで、自転車を利用する機会が増えるからです」と、自転車教育を中学校へと拡大するようになった理由を述べた。当初は、自転車教育に関心のある中学校に黒巖さんが赴き、Honda のプログラムを活用した指導のノウハウを伝えて回っていたが、2020 年度から年 1 回、先生方が集まる場を設け、指導内容を説明してマニュアルを提供するようになった。

※高校生の通学時 1 万人当たりの自転車事故件数が全国ワースト 1 位（2020 年）

まわりをよく観て、自分が何をすべきか考える

5 月 25 日、桐生市立中央中学校で 1 年生（100 名）を対象に交通安全教室が実施された。同校は約 7 割の生徒が自転車で通学している。

実技は「8 の字走行」と「反応回避」。生徒は 6 つのグループに分かれて、それぞれに先生が一人ずつ付いた。

8 の字走行は 8 の字状のコースに入り、混合交通において必要とされる状況判断と相手を気遣うことや思いやりの大切さを生徒に学んでもらうことがねらいである。一人ずつ入り口から円をつなげたコースに合流し、他車に接触しないように走行する。円からのはみ出し、足つき、並列走行、追い越しを先生がチェックし、一人でもこれらの行為があった場合は全員が円の外に出て、最初からやり直しとなる。

実際に走り出すと、全員が入りきる前にコース内で立ち往生してしまうため、「どうすれば全員がスムーズに走れるか」考える時間をつくる。「（8 の字の交差する場所で）足をついてしまう人がいますが、その人がすべて悪いのでしょうか。その人がピンチになっている様子を近くの人が確認できていれば、もっと上手く対応できるのではないでしょうか。それを考えて走ってみましょう」

Contents

P1　Safety Report セーフティルポ 若者

P3　Safety Report セーフティルポ 子ども

P4　Close Up クローズアップ 交通教育センター

P5　SJ Interview（株）ふたごじてんしゃ 代表取締役社長 中原美智子さん

P6　TRAFFIC SCOPE 交通参加者の行動を観察する

P7　Close Up クローズアップ 自転車用ヘルメット

P8　危険予測トレーニング（KYT）
SJ クイズ

SAFETY-JAPAN

Safety for Everyone

Honda はすべての人の
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは　ホンダ　SJ　検索

編集部：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内
〒 107-8556 東京都港区南青山 2-1-1
TEL：03(5412)1736
https://www.honda.co.jp/safetyinfo/
編集人：横山謙一

※ご不明な点がございましたら、下記までお問合わせください。
㈱アストクリエイティブ安全運転普及本部係
TEL：03(5439)1191
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

と先生がアドバイス。すると、前半に比べスムーズに走れるようになった。
再び生徒を集合させ、後半は何を意識して運転したかを質問すると、「声かけ」「譲り合い」と生徒は自ら考え、感じたことを答えた。「相手を気遣って運転をするためには、まわりの動きをよく観て、自分が何をすべきか考え、譲り合うことが大切です。自転車に乗っている時はもちろん、普段の学校生活の中でも意識してください」と、先生が締めくくった。
反応回避では、状況を認知し、判断・操作（動作）にいたるまでに、いかに時間や距離が必要かを体験することがねらいである。実施方法は、両手に旗を持つ先生に向かい、先急ぎの状態で自転車を走らせる。先生は自転車があるポイントを通過した時点で旗を上げ、生徒は旗とは反対の方向に進む。1 回目は両手で運転し、2 回目は片手で運転。片手運転は操作がより難しくなることも知ってもらった。全員が終わると、先生は自転車がどの地点を通過した時に旗を上げたか、生徒に明かす。「皆さんが回避するまでには 3 つの過程があります。1 つ目は『旗が上がった』と認知すること。2 つ目は『右側に上がったから左側に行かないといけない』と判断すること。3 つ目がハンドルを動かすという操作です。認知と判断に時間がかかるので、実際に皆さんが回避を始めた場所は私が旗を上げた場所より先だったことがわかると思います。今回は旗が上がることを予測して走りましたが、それがわかっていても認知が遅れたり、正しい判断ができない人もいました。歩道には歩行者がいて、皆さんが予測しない動きをすることがあります。その時、早めに対応するためにはスピードを控え、前をよく観ることが必要です。特に、片手運転は的確な操作ができなくなるので、やめましょう」とアドバイスした。
同校で交通安全を担当し、生徒への指導に携わった教諭 清水雄太さんは今年 4 月に県教委を通じて、このプログラムの指導ノウハウを得た。「事前に担当する教員で指導マニュアルの映像を見るだけで、効果的な自転車教室を運営できました。8 の字走行では、思いやりや状況判断が自転車の運転に欠かせないことを生徒が気づけたと思います。反応回避では、いざという時の対応を一人ひとりが体験を通じて学ぶことができました。いずれも、中学生にとって気づきにつながる良いプログラムです」。
これまで同校の交通安全教育は、クラスごとに生活指導の一部として行われており、今回のような実技による交通安全教室は初めての取り組みだと、校長 谷滋さんはいう。「1 年生は自転車通学に慣れていません。交通事故は人と人とのコミュニケーションがとれていれば回避できるはずです。今日はコミュニケーションの重要性を学ぶ良い機会になりました。また、安全な場所で急に曲がる、急に止まるという体験ができたことも意味のあることだったと思います。今後、2 ～ 3 年生を含め継続的に交通安全教育ができるように検討したいと考えています」。

先生が上げた旗とは反対の方向に進む反応回避

反応回避の 2 回目は片手運転で体験してもらう

最後に先生が旗を上げた地点を生徒に説明

気持ちにゆとりを持ち、他人のことを考えた運転を

自転車で通学する生徒が約 9 割という桐生市立清流中学校は 5 月 20 日、全学年を対象に「高校生交通安全教育プログラム」を活用した交通安全教室を実施。1 年生（81 名）は 3 クラス合同で座学と実技、2 ～ 3 年生（216 名）はクラスごとに座学のみが行われた。
座学は Honda が作成した資料を教室のスクリーンに映し出しながら各先生が進める。「交通安全にはルール、知識、マナーの 3 つが大切です。この 3 つを理解した上で、自転車に乗ってほしいと思います」と先生が以下の内容を説明していく。

ルール（従うべき決まり）	・自転車のルール、よく見かける違反行為 ・自転車の加害事故とその判決事例 ・自転車事故にまつわる三つの責任
知識（認識し理解すること）	・運転の仕組み（認知→判断→操作） ・自転車の保安部品、自転車保険について ・事故を起こした（事故に遭ってしまった）時の対応
マナー（人に対して思いやる心）	・交通マナーとは？ ・迷惑行為 ・ちょっとした安全・安心行動

最後に「交通安全で大切なことは、ちょっとした安全・安心行動です。10 分早く行動することを心がけましょう。気持ちにゆとりがあると、他人のことを考えられます。常に他人のことを考えて自転車に乗っていれば、事故に遭わずに済むはずです。この中には将来、クルマを運転する人もいるでしょう。ルールを守って自転車を安全に乗れる人は、大人になってからクルマも安全に運転できると思います」とまとめ、座学は終了となった。
この後、1 年生のみ校庭で実技が行われ、生徒たちは 8 の字走行と反応回避に取り組んだ。
同校校長 松崎智幸さんは「各学期の最初と最後に通学路の重要箇所に教員が立ち、指導していますが、一過性で終わっているように感じていました。まとまった時間をとって、生徒たちに自分事として考えてもらうことが必要だと思っていたので、全校生徒を対象に交通安全教室を実施しました。実技では自分の視野の狭さを実感し、それを克服するための答えを一人ひとりが見つけられたと思います」と話す。
同校で安全教育全般を担当している教諭 金子友幸さんは「座学のプログラムは自転車を安全に乗るために必要なことが網羅され、中学生にも理解できる内容でした。自転車で通学する生徒を観察していると、自転車通学に慣れていない 1 年生は周囲が見えていません。それに気づいてもらうために 1 年生だけ実技を追加したわけです。8 の字走行は入学して間もない 1 年生のクラスの団結力を高める効果もあると思いました」と話す。
また、金子さんは、交通安全教室が自転車を取り巻く社会的な状況に目を向けるきっかけにもなると期待する。「生徒たちの多くが将来、クルマを運転するドライバーになるでしょう。その時に、自転車で通学していたことや今回の交通安全教室を思い出し、クルマから見たら弱者である自転車の立場を意識してほしいのです。桐生市内は自転車が安全に走れる環境が整備されているとはいえません。そうした環境を良い方向に変えていけるのは今の中学生です。自転車にもクルマにもやさしい社会を実現できる人間になってほしいと願っています」。
県教委の黒巖さんは「各中学校での交通安全教室には足を運ぶようにして、実施後も継続的に取り組んでもらうためのアドバイスをしています」と、地道な普及活動を続けている。今年度は桐生市を含む群馬県南東部の中学校 14 校が同様の交通安全教室を実施する予定で、県教委はこれを県全体に拡げていきたい考えだ。

桐生市立清流中学校での座学（写真は 1 年生）

普段の自分の運転を振り返ってもらう

1 年生は座学の後、8 の字走行と反応回避を体験